

令和 3 年度第 2 回安芸高田市総合教育会議議事録

日 時	令和 3 年 11 月 30 日（金）午後 1 時 15 分から
場 所	市役所第 2 庁舎 3 階 第 1 委員会室
出席者の職及び氏名	市 長 石丸 伸二 教 育 長 永井 初男 教育委員 山本 博明、金川 佳寛、広瀬 ゆみ子、迫広 淑文

【総務課長】

皆さん失礼いたします。会議の前ですけれども、委員の皆様に卓上マイクの使用についてお願いを申し上げます。発言の際は、スタンド右下にあります銀色の楕円形のスイッチ。これを押していただき、マイクセンター付近の赤いランプの点灯を確認して、ご発言をお願いいたします。発言が終わりましたら、再度スイッチを押し、赤いランプを消灯させていただきますようお願いをいたします。議事録の作成に必要ですので、発言の際のマイクの使用についてご協力をお願いいたします。

それでは定刻となりましたので、ただいまから令和 3 年度第 2 回安芸高田市総合教育会議を開催いたします。開会に先立ちまして、本日の会議日程及び資料の確認をいたします。まず、本日の会議日程は、お手元の会議次第のとおりです。次に配布資料の確認をいたします。1 枚ものの会議資料。それから資料 1 市立図書館の今後について（案）。資料 2 中学校規模適正化に向けた検討についてです。不足はございませんか。

それでは早速、次第に沿って進めてまいります。ここからの議事進行につきましては、石丸市長に議長を務めていただきます。それでは石丸市長よりお願いいたします。

【石丸市長】

皆さん本日はお忙しい中、また寒くなってきた中、お集まりくださいまして誠にありがとうございます。以後は私の方で議長を務めさせていただきますが、本日の会議は、14 時ちょっと過ぎたあたりをめどに進めていければと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

本日の議題ですが、既にご案内のとおり、図書館と中学校になっています。かねてより、いろいろ課題、問題意識は共有させていただいていたんですけども、率直に申し上げてこの二つの非常に大きなテーマ。議論が遅れていたという認識を、危機感を持っています。ここから急いで立て直していかなければ、いよいよ未来に継ぐことが難しくなっているという非常に危うさを覚えている次第です。その意味では、本日この会議の中でしっかりと第一歩を踏み出していきたいと思っています。つきましては、ぜひとも忌憚のないご意見、活発な意見交換、議論をさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

では早速ですが、協議題に移ります。まず、市立図書館の今後についてです。前もって資

料をお配りしてあったかと思いますが、中身の方はお読みいただけているかと思いますが。この資料の1ページ目の「はじめに」に凝縮されているんですが、現状としては、市民の利用はそんなに多くない、減ってきているという状況です。そして、だからこそ機能の充実、そして、当然ですが運営の効率化、これを図ろうという内容になっています。項目でいきますと、2の現状と課題というのはいろいろとデータが並んでいるんですが、一つまた皆さんで共有をしておくと、表1ですね。1ページの表1にあるとおり、例えば貸出し冊数で見ると、平成25年度から令和2年度にかけて、約2割減っています。一方で、残念ながらといいますか。その上の段、業務委託料は、4000万から4800万。19%ほどに増加してきているという真逆の推移を示しています。こうした課題がある中、ずっと飛びまして、最後の方なんですけども、今回、皆さんにお示しさせていただいている改革案というのが10ページ、今後の方針についてになります。軸は二つありまして一つは、運営の効率化、(1)になります。端的に言うと、(1)の②のとおり、開館時間を調整します。今までかなりの時間開けていましたので、それをぎゅっと絞ってみるという発想です。絞り方については、前後して恐縮なんですけど、この前の5ページ、6ページ。表でいうと、6、7あたりに、実際の各図書館ごとの利用人数のデータがありますので、これを基にどこが抑えられるかというのを協議し、戻って10ページの表のとおり、変更後の案を示しています。これらによって、移って11ページの上の方にある四角の中ですが、年間で約600万のコスト削減が図れるという立てつけになっています。あとは、③④諸々あるんですが、事務的な変更になっています。より大事なものは、(2)ですね。機能の充実の方なんですけど、①のところで掲げているのは、中央図書館の話なんですけど、やはり施設のリニューアル、これを調整していかなければならないと思ってまして。イメージの写真があるんですが、めくって12ページのこのようなですね。今も近い画にはなっているんですが、より利用者の方が使いやすい、ここに来やすい、過ごしやすい図書館というものを創出したいと思っています。そのあと、②③④というのはコンテンツの主に話になっていくんですが、②については、早速この12月1日から実施を考えています。このキッズタイムというものです。図書館は静かにしなくちゃいけない場所という固定観念をひとつ打ち破ってみてはどうかという試みです。なので、今まで来にくかった、特に小さいお子さんは、そういうことがあるのかなと思うんですが、そういう方により親しんでもらい、やはり小さい頃に親しみが持てれば、その先ずっと大人になって、歳を召しても、身近な存在に図書館がなれるのかなと思います。③は、この前のところと絡むんですが、文化センターとのコラボレーションをやってみると。④は、これは今の自由に乗った時代に合わせた考えですが、電子図書館というものの検討を進めていきたいと思っています。

ざっとですが、今後の図書館については、このようにまとめていますが、ここで皆さんの方から、ぜひともご意見、ご感想、また疑問、質問があればちょうだいしたいと思います。もし、ご感想などがあればそのあたりからよろしいですか。

【広瀬委員】

はい。

【石丸市長】

では、広瀬委員お願いします。

【広瀬委員】

資料を見させていただいて、今の現状の図書館についてとてもよく分かるようにできたとおっしゃって見させていただきました。私はやっぱり利用者が、今減っているのは、人口減少に伴ってというのもあるので、それは致し方ない部分があるかなとは思いますが、ただ、今後、やっぱり空間としての図書館という役割、それはもう絶対必要なものなので、各町に起こしていただきたいという思いがあります。

私、3点ちょっと思ったんですけども。一つには、これからどんどん高齢化していくかなと思うんです。人口減少というところに輪をかけて高齢化していく。そういう場合、免許を返納したり、いろんなことでだんだん私たちはこれから行きにくくなる。そんな時にこの図書館という行く場があるというのは有り難いので、退職した私たちの仲間も今になって図書館行くことが増えたよという声は実際聞くので、残してほしいなという思いがあります。例えば、地域のサロンですよ。そこをお手伝いしてるんですけど、15人毎回来られれば、男性は1人だったり。それは、男性と女性の特質の違いもあると思うんです。男女差というのは。なので、そういう男性の方も気軽にに行けるように、例えば図書館の側に将棋や囲碁ができるとか。それから子供たちも一緒に楽しめるアナログのゲーム。オセロであるとか、人生ゲームであるとか。ちょっと対面して楽しめる。スマホやテレビじゃなくってというのがあったらいいなと。そうしたら、世代間の交流が生まれるんじゃないかなということが一つ思いました。

2点目は、『としもっと！』というのが、広報誌に入っています。図書館の方が、この本オスমেですって。私、それを家族版でやったらどうかなと思うんです。今、小学校も中学校も読書推進計画を立てて、八千代中も毎日午前中に、始業前に毎日10分間本を読むという風にされているみたいです。小中学生がそうやって読んだ本を、お父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃん、家族に僕、私のオスメの本はこれよと言って、保護者にも図書館に足を運んでもらって、子供が気に入った本を読んでもらうみたいな。家族間での『としもっと！』というのがあったら図書館に足を運ぶ機会が増えるかなと。私、子供の力はすごいといつも信じてるんです。だから、孫のため、子供のためということになると、大人も動きやすいってところもあるかな。そういう意味では、私、キッズタイムはすごく大賛成です。小さいうちから、親子で本に親しんだり、絵本って読み聞かせてもらう時に、読んでもらって次のページに行く間に想像力が育つ。そういう意味で、就学前の小さいうちから本に親しむのは大事なことで。いつも思いますが、孤立した保護者がいなくなる。1

人でも減るというので、そこはすごく有り難い取り組みと思っています。

3点目は、私、高宮の出身で高宮の図書館にも、何度か足を運んだり、行く度に私1人だったんです。そして、八千代に住んでいるので、八千代の図書館にも足を運んで行く度に私1人だったんです。これ集えないなと思って。何かを側に置いたとしても集えない。これは、本当に私の個人的な意見なんですけど、毎日開けておかなくてもいいのかなと思って。月曜日は、全市6町休みですよ。火木土は、どこどこが開いています。月水金は、どこどこが開いています。そうしたら、凝縮してそこに行く人が増えて、人と会えるんじゃないかなという発想したんです。毎日開いてればそれは便利はいいですが、今のゴミの日でもちゃんと頭に入りますから、火曜と金曜出すと思えば、開いていると思えばその日に目指して行くのは割と早くに習慣づく気がして。そういう風にしたらちょっと人と会えるのかなと。司書の方、スタッフの方も一定の図書館じゃなく、いろんなところに兼用できるシフトにして、そしたら地域性が分かって、新しいひらめきやアイデアが、出るんじゃないかなという風に思います。

そして、今日の中国新聞に地域再生に関する領域で、ないものねだりをするんじゃなく、あるもの探しをしようという考え方っていうのが載っていて。今、せっかく図書館あるじゃないですか。そのあるもののいいところを探して、今後活用していけば、充実してくるのかなという風に思いました。本当に単なる個人的にいろいろ考えた感想で申し訳ないですけど、そう思いました。

【石丸市長】

どうもありがとうございます。今の広瀬委員のお話、ご意見に対して、何かご感想等、どなたかおありでしょうか。

【金川委員】

いいですか。

【石丸市長】

金川委員お願いします。

【金川委員】

すいません、失礼します。今後の方策についてということで、時間が短縮になるというところで、今の金額、かかっている費用を圧縮するというのは、とりあえず賛成です。これからいろんな意見がまた出てくると思うんですけど、これでまたどういう結果が出るかどうかというのは、私たちもこれで見守っていけたらなとは思っています。

時代に応じた図書館のことなんですけども。先ほど広瀬委員さんも言われましたキッズタイムですよ。以前、私が親同士の触れ合い、早い段階でこの親のつながりを作ってほし

いというところにキッズタイムがつながってくるんじゃないのかなという思いがあって、非常に喜ばしく思っております。

あと、各町に図書館がありますけども。そこのある位置が各町によってもやっぱり違います。例えば、学校が近いところもあります。学校から通学路とは全然違う離れたところがあれば、やはり子供の利用は、また改めて図書館に行こうっていう気持ちにならないとやっぱり図書館に足が向かない。逆に言えば、通学路の途中に図書館があれば、ちょっと図書館に寄ろうかと。今、広瀬委員さんも言われていましたけど、お年寄りでもちょっと寄ってみようかといったそういう図書館づくりをしていかなければならないのかと思いました。大きく目的があって行く図書館もあるかもしれないんですけども、ちょっと寄ってみたら何かあるんじゃないかとか、何もなかったら帰ろうかなみたいなそういう気持ちで立ち寄れる図書館。今のスペースですね。ああいうのもあると思うんですけど、情報であったりいろんなものが。お友達が集えるようなものをやっぱりできればいいのではないかなと思いました。

すいません。ちょっと大きく話になりまして。以上です。

【石丸市長】

ありがとうございます。他の皆様いかがですか。迫広委員お願いします。

【迫広委員】

事前に資料を配付していただきましたので、いろいろ丹念に読ませていただいて、この改善策で私は、全く異論はありません。この通りやっていただきたいと思います。しかし、将来的にこのままで通用するかというと、持続可能な図書館づくりを考えた時には、また何年か先には、次の改善策をとることが必ず出てくるんだと思います。その時に、内部の協議だけで改善策をつくり上げるということももちろん大事なんですけど、外の力をちょっと借りるというか。というのが、11月2日付の、県教委のホームページのトップページに、報道向けの記者発表資料というのがあって、そこをクリックしたら、県立図書館と安芸高田市立図書館とのコラボという題で記事が載っていました。何かというと、県立図書館が地域連携事業をやっているとして、没後450年毛利元就に対して、約60点の向こうが所蔵している資料や図書をここへ貸し出している。ここは、それを展示して多くの市民の方に目を通していただく。そういう地域連携事業を県立図書館がやっていますよという記事です。私はそれ知りませんでしたが、県立図書館いろいろやってくれる。そういうことであれば、うちも近隣の市町との連携交流。恐らくどの図書館もうちと同じような悩みや課題を抱えていらっしゃると思うので、そういったことの情報を共有したり、連携や交流イベントがもし可能であれば一緒にやったり。そういうことをする中で、うち方の図書館の見直しのヒントがそこにあるのではないかなというようにことも考えますので。今からでもいいので、例えば、市長さん、町長さんが元就3兄弟で三原市や北広島町と交流されていますよね。図書館もそうい

う意味で、三原市や北広島町の図書館と交流をしてみる。いろんな情報を仕入れて、うちの改善策のヒントにそれをしていく。うちでやったものをまたお返しをする。そうやって、近隣の市町の図書館との連携交流もしっかりとっていく中で、うちの改善策のヒントがそこへ見つかってくることも思うので、今回現時点はこれでやっていただく。更に、そういう外部からの刺激を受けて、次の改善策も練りつつ、運営していくということが今求められているのではないかと考えています。まだ、今、現時点はこれでやられたらいいのではないかと考えています。以上です。

【石丸市長】

どうもありがとうございます。続いて先に山本委員お願いします。

【山本委員】

先ほど市長さんから課題を踏まえての今後の方策ということで話がありましたが、先ほど迫広委員も言いましたように、運営の効率化4点。時代に応じた図書館機能の充実4点。いいと思います。是非進めてほしいなという風に私も思います。これを見た中で、思いが2点ほどあります。

1点目は、図書館の利用を増やすというのもあるんですが、小中高等学校に出向いて、図書館利用教室というのは是非やってほしいなと思うんです。理由としては、先日訪問した美土里中学校でPBLという問題解決学習で一生懸命問題を自分で考えて解決していくという時に図書館というのは重要な役目を果たすと思うんです。それと同時に安芸高田市の学力向上戦略の中で、施策の4番でミライチャレンジ探求学習の充実というのもあげていらっしゃいますね。もう1点は、ニュースで全国の高等学校で来年度から総合的な学習の時間がなくなって、探求学習の時間になるというのがありました。ということになれば、吉田高校、向原高校の子供たちも探究学習の時間に力を入れてくると思います。そういった意味で、図書館というのはいろいろな分野の情報や資料を持っていると思うんです。特に安芸高田市の地域の図書館を利用して、問題を解決していくというのがどんどん増えたら、また図書館が活性化していくと一点思っているんです。

2点目は、地域福祉の観点といいますか。高齢者の社会参画。生涯学習の面から考えて、レファレンスサービス、図書の在り方や資料がありますよという高齢者の図書館利用。そういったものに力を入れてもらって、高齢者の利用が増えればいいなという風に思っておりますし、是非利用案内に調べ物相談というようなものを大きく打って出てほしいなという思いを2点持っております。以上です。

【石丸市長】

ありがとうございます。永井教育長からも何かご感想等をいただいてもよろしいでしょうか。

【永井教育長】

正直申しまして、今回ほどこの図書館の在り方について時間をかけて協議をしたというのは、私恥ずかしながら、教育長拝命して初めてのような気がしております。石丸市長からは、新しい視点での示唆を多くいただきましたし、先ほどの4人の教育委員さんからもそうですし、これまでも議論の段階でさまざま今後を生かしていく必要があるという風な新しい視点でのご意見もいただきましたので、いわゆる執行部の方としての今後の在り方といえますか。そういうところをいろいろご示唆いただきましたので、事務局職員と一緒に頑張って、今回の改善策が本当に生かされるように精一杯また頑張っていくといえますか、努力していきたいなという風に思っております。

【石丸市長】

ありがとうございます。今、皆様からご意見をいただきましたので、私の方からちょっとずつですが私の思いをまたお伝えさせていただければと思います。

まず、冒頭で申し上げたところの繰り返しにはなるんですが、多くの大人は分かっているはずなんですが、冷静に考えれば当たり前なんですが、今のままだと6つの図書館は残らないです。どこか順番になくなってきます。そうさせないために、早く手を打たなければいけなかった。もう今から急いで打っていくしかない。そのためのアイデアが、運営の効率化であったりするんですけども、お話にありました時間の凝縮というのでしょうか。時間の短縮、単に経費コストカットではなくて、もっと集約をして、ただでさえ大きな町ですので、集約して人が集まる仕組みをしれっと組み込んでいく。その際に、やはり6つあるんだったら、六者六様の地域性ですよ。個性というんでしょうか。これを出していくと、そこに人が集まる理由ができるんだらうと思っています。これがないサービス、財ですけども。生き残れない時代かと思っています。もう溢れていますので、例えばハードですけども、四国の高知県だったかと思いますが、空の上の図書館という隈研吾さんだと思いますが、有名な建築家が建てた大きい木でできた木造の立派な図書館があります。私、わざわざそれだけ観光で見に行ったんですけど、特色があれば人が集まります。うちはちょっとハードが目立ってやろうというのはなかなかハードルが高いんですけども、中身なら作り出せるんじゃないかなと思っています。それこそ図書館だけど、子供、お年寄りまで皆がそこを上手く使えている、楽しめている場所、機会、時間を提供できるならば、それはきっとこの町の名物にしていけるんじゃないかなと思います。その時は、市立でありながら市民に限らず、いろんな人をここに吸い寄せる力になるかと思うんですが、そういう意味で思ったのが、やはり今回はキッズタイムというのをやってますけども、一方で高齢者の方ですね。地域福祉の面も含めて、より皆さんに使ってもらいやすい仕組み、運営の方法を模索していきたいと思っています。その際に、先ほど広瀬委員のお話にあって、確かに子や孫のためならというのは、物凄い強い原動力になるのかなと思いますので、そのあたりをうまく組み込みたいなと感じました。

お話の中で、アナログのゲームというのもあったんですが、逆に子供たちがやっているのはデジタルのスマホであったりニンテンドースイッチですよね。あれを皆でやってみる。お年寄り、おじいちゃんおばあちゃんもやってみる。実際どこかの図書館やeスポーツですよね。この前、何新聞か忘れましたけど、90何歳のお父さん、おじいちゃんがレーシングゲームをやっているというのをテレビかネットで見ましたけども、そういう例もありますので、実は年齢問わず親しめるのかなと。それがまして子や孫がやっているものであれば、じゃあ私もという出発点もありかなと思いました。

あとは、もう1個だけお話をさせていただくと、迫広委員がご指摘くださった近隣市町との連携ですね。毛利3兄弟はもっと使えると思っています。この前も、サンフレッチェと一緒に応援してきたんですけども、あれに限らずとりあえず3市町で何でもいいから一緒にやってみれば力は3倍になりますので。まさに三矢の教えですが。その観点でこの図書館等ですね。いろんなものを一緒にやってみて、一緒にやるなかで、3兄弟の個性も出ると思います。今、多分同じ図書館が3市町にあるんだと思います。似たようなものが。どこも恐らく同じ状況で利用者が減っていて、人口減ってますから。持て余しているなど。でも、うちの個性を出せば、他の弟とそれぞれでまた違う方法というのが見出せるんじゃないかなと思いますので、とにかくこのコラボ。いろんな方面で進めていきたいと思っています。

他にご意見、ご感想等、またご質問がもしあればと思うんですが、いかがでしょうか。

先ほど、開館時間のところで今後、見極めていくという話があったんですが、全く私もそうだと思います。一旦これでやってみて、申し訳ないんですが、あるいは元に戻すというのもあるかもしれないと思っています。それこそ利用者の方の声を聞いてみて、あれやっぱあの時間にいるよというのがあれば、適宜見直すというあたりでそのあたりは柔軟にこの先も調整をしていきたいと考えています。

他のところはよろしいでしょうか。では、ほかにありませんので、以上で市立図書館の今後についてを終了します。皆様どうもありがとうございました。